

山陰近畿自動車道の利用交通促進等を巡る要望の概要

要望内容

- 一、未整備区間の事業化・整備計画の推進の検討に当たっては、利用交通の促進への配慮に最大限努められたいこと
- 一、これまで無料の道路として生活交通の一部を分担している経過等を踏まえ、利用交通に与える影響を極力抑制できるよう、料金設定については最大限の配慮のうえ、必要最小限のものとされたいこと

要望活動

日 時：令和4年10月28日（金）16：45～17：00

要望先：西脇京都府知事

要望者：丹後・地域高規格道路推進協議会会長 中山京丹後市長
副会長代理 井上与謝野町副町長

同席者：本田衆議院議員、森口府議会議員、中島府議会議員



西脇京都府知事へ要望書を手交



要望内容の説明

山陰近畿自動車道の利用交通促進等を巡る

要 望 書

令和4年10月28日

丹後・地域高規格道路推進協議会

山陰近畿自動車道は、改めて申すまでもなく、日本海国土軸を形成する道路であり、国土強靱化、国民保護及び地方創生等の実現に欠かせない非常に重要な幹線道路です。

従来、この山陰近畿自動車道は、無料の地域高規格道路として計画が進行してきましたが、先日の山陰近畿自動車道早期実現促進大会において、まちづくりの長期展望等の隘路となっている早期全線整備の時期的目途を明らかにし、同整備のできる限りの加速化を実現するため、利用者負担を排除せず、安定的な財源確保により令和10年代の全線整備と令和5年度には網野ICまでの事業化等を強く求めたところで

す。

これを受け、早速、道路管理者である京都府から、網野ICまでの令和5年度までの事業化を含むこれらの要望について、具体的な検討を可能な限り早期に、確実に実現していくため、併せて、これに向け必要な利用者負担等に係る手続きを早期に進めたい旨提案をいただきました。

丹後地域は、かねてより地理的・時間的距離の制約・負担から経済的・社会的な活力支援の環境に構造的な課題を有していることから、歴史的に各分野の企業立地・観光・物流をはじめ幅広い業種で都市部との格差の顕在化等をやむなくしている面が否めません。

つきましては、この際、利用交通の促進及び利用者負担の在り方等に関し、次の事項を強く要望しますので、十分・万全にお取り計らい下さい。

記

- 1 今後一層の進展加速を請い図る道路整備の実現による地域の活性化を確実なものにするため、未整備区間の事業化・整備計画の推進の検討に当たっては、利用交通の促進への配慮に最大限努められたいこと
- 2 その上で、たとえ管理費等の利用者負担が避けられないとしても、これまで無料の道路として生活交通の一部を分担している経過等を踏まえ、利用交通に与える影響を極力抑制できるよう、料金設定については最大限の配慮のうえ、必要最小限のものとされたいこと

令和4年10月28日

京都府知事 西脇 隆俊 様

丹後・地域高規格道路推進協議会
会長 京丹後市長 中山 泰